

令和3年度 校内研修計画

I 研究主題

自分の考えを進んで表現し、学び続ける児童の育成 ～ふきだしを活用し、学習を振り返ることを通して～

II 主題設定の理由

学習指導要領では、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められている。特に深い学びの視点については、習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることが重要となっている。千葉県では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、『『思考し、表現する』実践モデルプログラムを作成し、児童生徒の資質・能力の育成を目指している。

平成31年度に行われた全国学力・学習状況調査の算数の正答率で全国平均を5.6ポイント下回っている。特に正答率の低かった記述式の問題の解答類型を分析すると、番号の選択はできているが、理由が不十分である児童の割合が全国に比べ多かった。根拠となる理由を言葉や数を使って説明することができていないことが課題である。また、令和2年度全国学力・学習状況調査の結果から、国語、算数とも記述式の正答率が低く（国語45.5%、算数55.3%）、条件に合わせて情報を整理し、簡潔に「書くこと」に課題があることが分かった。また、数学的な考え方の領域問題の正答率が57.3%と低く、特に知識を相互に関連付けながら理由や処理する方法を記述する問題では正答率が50%程度であり、「見方・考え方」を働かせての回答に困難さが見られた。他学年の児童の学習の様子についても、自分の考えや思いを表出することに抵抗があったり、適切な言葉が見つけれなかったりして、単語の羅列でのやり取りが聞こえてくることもあり、自分の考えや思いを話したり書いたりすることに苦手意識を感じている児童が多い傾向にある。

昨年度の研究では児童の実態を踏まえ、「自分の考えを持ち、進んで表現できる児童の育成」を研究主題に取り組んだ。「スクラップシート」作りやふきだしを用いたノート作りの取り組みを通して、書くことへの抵抗が減少するなど一定の成果は挙げられたものの、書くための技能については課題が残った。

そこで、本研究では言語活動の取り組みを土台とし、算数科において、ふきだしを活用し学習を振り返ることを通して「自分の考えを進んで表現し、学び続ける児童の育成」を目指す。学習の場面ごとにふきだしを使って自分の思いや考えをノートに表出させる。それをもとに自分の学習を振り返り、次の学習への更なる意欲や見通しにつなげていく。そうすることで「自分の考えを進んで表現し、学び続ける児童」が育成できると考える。この実践を通して、本校の教育目標「がんばる子～自ら学び、心豊かなたくましい児童の育成～」に迫っていきたいと考える。

III 研究の目標

自分の考えを進んで表現し、学び続ける児童を育てるために、ふきだしを活用し、学習を振り返る手立てを講じることが有効であることを、実践を通して明らかにする。

IV 研究の仮説

- ◎ふきだしを活用して自分の思いや気付きを表出しやすくさせたりすることで、児童は自分の考えを進んで表現することができるであろう。
- ◎ふきだしを基に、視点を与えて自分の学習を振り返させたり、児童の振り返りを次時の導入で取り上げ、意図的に学習のつながりをもたせたりすることで、学び続ける児童を育成することができるであろう。
- ◎言語活動に必要な土台作りとなる日常的な活動を取り入れることで、自分の思いや気付きを表出しやすくさせることができるであろう。

V 研究の内容

1 研究における目指す児童像

自分の考えを進んで表現し、学び続ける児童

本研究では、「ふきだしを使って自分の思考をノートに表出する児童」「既習と関連付けて考えたり、学んだことを生かそうとする児童」と捉える。

研究主題にせまるための手立て

(1) ふきだしを活用した取り組み

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの過程でふきだしを活用する。学習問題を設定した後、見通しをふきだしで書かせたり、自力解決や比較検討時に考えたことをふきだしに書く。その中で、数学的な見方・考え方に迫る記述を教師が意図的に取り上げたり、評価したりすることで、質を向上させていく。

(2) 振り返りの設定

「まとめあげる」段階で、学習の振り返りを書かせる。その際、ふきだしを基に自分の学習を振り返ったり、学習したことを基に生かせることを考えたりさせるなど、各視点を明確にし、振り返りを書かせる。また、「見いだす」段階では、前時の児童の振り返りから、本時の学習につながりそうなものを取り上げていく。このような過程を繰り返すことで、学び続ける児童に育成につながると考える。

(3) ICT機器の活用

素材を提示する場面では、児童の関心を高めたり、問題の理解を促したりすることに有効であると考ええる。また、授業の中でふきだしや解決方法を提示することで、「広げ深める」段階で、多様な考えに触れることができ、質の高い学びへとつながると考える。

(4) 土台作りの活動

① 言語活動に必要な語彙力を高めるための活動

ア 朝読書の充実 → 継続的に行うこと

- ・毎週木曜日の朝学習は、全校で読書を行う。
- ・読書の仕方を全校で統一する。

前日に読む本を用意しておく。
1冊を読み切るまでは本を交換しない。
読んだ本は、読書通帳に記入する。

イ 月1回の第4木曜日（3月は第2週）は、教師の読み聞かせを実施する。

言葉の教室や通級指導教室、特別支援担当も含めた職員による読み聞かせを行う。

ウ 国語学習の充実

- ・言葉遊びや国語辞典の活用
- ・図書館の活用
- ・学年に合わせた活動を工夫し、継続して取り組む

② 自分の思いや考えを相手意識、目的意識をもって伝え合う活動

ア 朝の会や帰りの会等での1分間スピーチ

（5W1Hを十分指導したうえで取り組ませる）

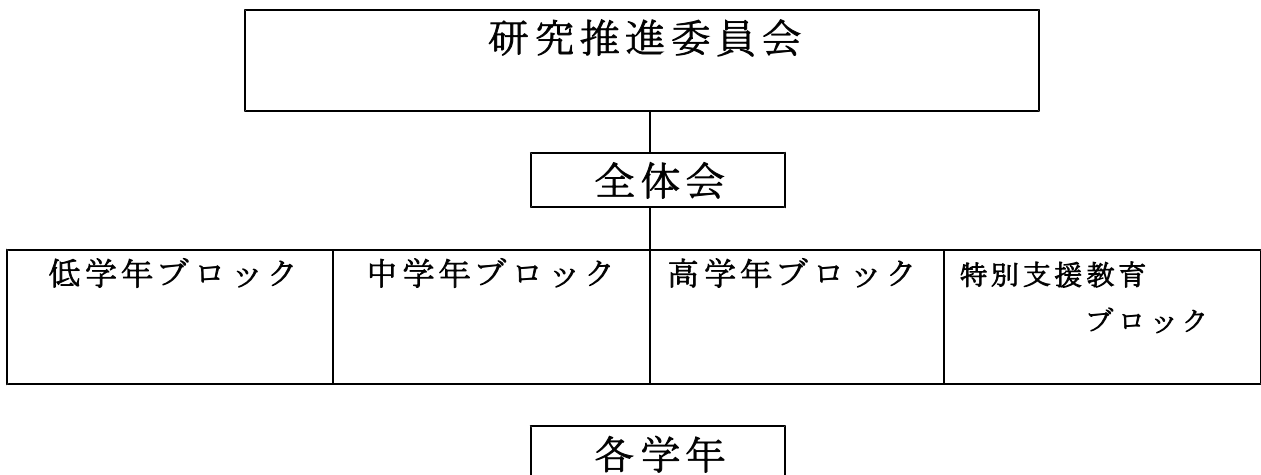
イ 学習時における話し合い活動の位置づけ

ウ ノート指導の吹き出しの活用と振り返りの場作り

エ 月1回の読書郵便の作成

オ 月1回（第4週）のスクラップシートの作成

1 研究組織



2 研究計画

学期	月・日	研修内容	主な学校行事
一 学 期	4. 1 4	研究推進委員会	8 (水) 入学式 29 (木) 授業参観
	4. 1 9	研究推進委員会	
	4. 2 9	研究主題・研究計画の立案 研究主題・研究計画の周知	
	5. 1 0	研究推進委員会	
	5. 1 3	学習の流れ・手立ての共通理解 (高岡先生)	
	5. 2 7	一次調査(全学級), 事前アンケート調査の共通理解 相互参観のクラス・一次調査の日にち決定 (全国学力・学習状況調査の実施)	
	6. 1 0	※事前アンケート調査実施(各学級) 一次調査の分析	
	6. 1 7	相互参観2年1組・4年2組・6年組 放課後: 校内研修 (質疑応答・課題の把握) ※授業丸ごと参加参観旬間(18~23日) (校長・教務)	
	6. 2 1	石橋先生・竹下先生「研究の方向性について」	3(木) 事務所訪問
	7. 1	学習の流れの確認	20(火) 終業式 27(火)28(水) 29(木) 保護者面談
7. 8	国語の土台作り活動の実施状況報告		
8. 5	新島先生 指導案検討(3年)		
8.	評価について		
9. 2	指導案検討		
二 学 期	9. 1 5	検証授業①3年1組(指導主事要請 竹下先生)	1(水) 始業式
	9. 3 0	交流会に向けた準備	
	10. 7	二次調査(全学級) ※事後アンケート調査の実施(各学級)	2(土) 運動会 8(金) 2地区ミニバス大会 27(水) 2地区サッカー大会
	10. 2 0	中間発表会に向けてのまとめ (二次調査の分析結果等)	
	10. 2 8	全国学力・学習状況調査の分析	
	11. 4	学力向上交流会の準備?	10(水) 都市音楽発表会
11. 1 1	学力向上交流会(中間発表)		

	1 1 . 2 5	(別の研修)	18(木)19(金)
	1 1 . 3 0	実践の分析(手立ての修正と追加)	修学旅行
	1 2 . 2	実践の分析(成果と課題)	23(水)
	1 2 . 9	国語の土台作り活動の実施状況報告	終業式
	1 2 . 1 6	指導案検討	
三 学 期	1 . 1 3	指導案検討	7(木)始
	1 . 1 8	第2回連絡協議会(付属)	業式
	1 . 2 8	検証授業②(千葉大との交流研究会)石橋先生 5年1組	20(木), 21(金)授 業自由参観日
	2 . 3	(個)今年度の研究のまとめ 修正締め切り	
	2 . 1 0	(全)研究のまとめ製本	24(木)25(金) 学力検査
	3 . 1 0	(個)学力検査についての考察 (個)児童の作品, 掲示物整理 (全)本年度の研究の振り返りと次年度への見通し	3(木)6年生を送 る会 18(木) 卒業式 (予定) 24(木) 修了式